

大会規定

- 1 1チームの登録選手は、11名以上25名以内とする。(ベンチ入りは20名以内)
- 2 出場選手は、令和6年度5月末日現在連盟への登録済みの者に限る。
- 3 審査証は当年度発行のものとする。
- 4 オーダー表記入選手20名以内およびチーム責任者、登録された監督、コーチ、マネージャーのみベンチに入る事が出来る。但し、各種登録証(チーム責任者、監督、コーチ)および審査証(選手)を携帯していない場合は、いかなる理由でもベンチには入れないが、チーム責任者、監督、コーチは、試合開始までに間に合った場合は、審査の上でベンチ入りできる。また、選手は試合終了までに間に合った場合は、審査の上その時点でベンチ入りできる。なお、チーム責任者は必ずベンチに入らなければならない。チーム責任者が不在の場合は試合できない。
- 5 組み合わせの若番号が1塁側のベンチ、後番号が3塁側のベンチに入る。ただし、チーム責任者、監督、コーチは登録証を携帯すること。
- 6 監督(背番号60)・コーチ(背番号50)は選手と同じユニフォームを着用すること。
- 7 試合開始時刻60分前までに試合球場に到着し、直ちにオーダー表5部、投球回数記録副表3部および大会初戦の時は、直前大会参加報告書を大会本部に提出のうえ所定の審査を受けなければならない。
- 8 オーダー表交換時に両キャプテンにより、先攻・後攻をジャンケンで決める。
- 9 試合開始予定時刻までにチームがグラウンド内に現れないときには、球場責任者と責任審判員が協議して、没収試合を宣言することができる。
- 10 試合方式
 - ①各試合は2時間00分/7回戦で行い、4回終了をもって正式試合とする。試合成立後は試合開始から2時間(決勝戦は2時間20分)を超えた場合、新しいイニングには入らない。また、降雨や視界不良などにより試合続行が不可能となった場合、両チームが完了した均等回の総得点で勝敗を決する。尚、試合成立前に、上記の理由により試合続行が不可能となった場合はサスペンデッドゲームとする。準決勝、決勝を除き、同点の場合は最終回時点で出場していたメンバー全員の抽選とする。
 - ②4回終了時10点差、5回以降7点差の場合、コールドゲームとする。
 - ③準決勝、決勝戦は延長1回あるいは試合開始から2時間(決勝戦は2時間20分)を超えて(どちらか早い方)新しいイニングに入らず、タイブレーク方式を実施する。
- 11 タイブレーク実施細則
 - 1) 特別規則
 - (イ) 準決勝戦は延長8回あるいは試合開始から2時間を超えて(いずれか早い方)、決勝戦は8回あるいは2時間20分を超えて(いずれか早い方)、両チームの得点が等しい時、以降の回の攻撃は、1死走者満塁の状態から行うものとする。
 - (ロ) 打者は、前回正規に打撃を完了した打者の次の打順の者とする。
 - (ハ) この場合の走者は、前項による打者の前の打順の者が一塁走者、1塁走者の前の打順の者が二塁走者、そして2塁走者の前の打順の者が三塁走者となる。
 - (ニ) この場合の代打および代走は認められる。
 - (ホ) タイブレークはその試合の勝敗がつくまで続行するものとする。
 - 2) チームおよび個人記録: チームおよび個人記録は公式記録とするが、以下に掲げる事項に留意すること。
 - (イ) 投手記録 ・規定により出塁した3走者は、投手の自責点とはしない。
 - ・完全試合は認めない。
 - ・無安打、無得点試合は認める。
 - (ロ) 打撃記録 ・規定により出塁した3走者の出塁の記録はないものとする。
 - ただし、盗塁、盗塁刺、得点、残塁などは記録する。
 - ・規定により出塁した3走者を絡めた打点、併殺打などは全て記録する。
- 12 (1) 投手は80球を超えて投球することが出来ない。
1日最大80球とし、連続する2日間で120球以内とする。連続する2日間で80球を超えた場合は、3日目は投球を禁止する。
(2) また、3連投(連続する3日間)する場合は、1日の投球数を40球以内とし、4連投は禁止する。
※「中学生投手の投球制限ガイドライン」を適用する。

大会規定

- 13 監督及びコーチの指示・伝達は1試合で攻撃2回と守備2回の計4回とする。
延長に入った場合は、それぞれ1回(追加回数)の指示・伝達を認める。(選手の怪我や、選手の交代などは回数に入らない。)守備側の投手に対する指示・伝達が3回目となれば、自動的に投手は交代となり、その投手は他の守備位置についてもよいが、再び投手として登板することはできない。内野手(捕手を含む)が、2人以上投手の所に行った時も1回に数える。
また、指示・伝達は審判がタイムを宣告してから「30秒以内」とする。
- 14 1イニングで同一の投手に対しての指示、伝達が2回目となれば、自動的に投手の交代となる。
その投手は他の守備位置につくことができるが、同一イニングでは投手として登板することはできない。
ただし、新しいイニングに入れば、再び投手として登板することができる。
- 15 審判員の判定に対する抗議は認めない。ただし、ルールの適用についての確認は認める。
- 16 監督またはコーチが投手に指示などをする時は、マウンドのところで行うこと。(ベンチからは駆け足で)
- 17 2塁走者やベースコーチなどが捕手のサインを盗んで、打者にコースや球種を伝える行為を禁止する。
- 18 ボール回しをする時は一回りとし、最終野手は、その定位置から返球をする。また、打者が打撃を継続中、塁上で走者がアウトになった場合のボール回しは禁止する。
- 19 投手は、走者をアウトにする意思がないのに、無用のけん制球を繰り返すとか、または送球するまねを何度も繰り返す行為は試合のスピーディーな進行の妨げになるため禁止する。
- 20 各チームは同色のヘルメット7個以上、捕手の規定防具【マスク、捕手用ヘルメット、プロテクター、レガース、スロートガード、ファウルカップ(一体型捕手マスクの場合はヘルメット、スロートガードを除く)】2組を備えること。
- 21 ユニフォーム、バット、ボール、スパイク、グラブ等は連盟指定業者のものに限る。
- 22 捕手は、必ずヘルメット並びに規定防具を試合、練習を問わずに着用すること。
- 23 グラウンドの都合で大会トーナメント規定が別に制定された場合はそれに従うこと。
- 24 ベンチ内では携帯電話の使用を禁止する。
- 25 光化学スモッグ発生(予報、注意報、警報)の場合、運営委員の指示に従う。
- 26 主催者は、大会中の負傷については、希望により救急車の手配等を行うが、それ以上の責任は負わない。
また、大会保険には加入していないので
自動車等への賠償についても、試合チームのスポーツ安全保険にて対応してください。
天候不良等で試合挙行があやぶまれる場合は自己判断せず、必ず主催者に問い合わせること。
- 27 前の試合中にグラウンドに入っの練習(バッテリーを含む)は原則禁止。
但し、バッテリーについては試合会場により球場責任者の判断を以て、
前の試合の4回終了以降に投球練習を認める場合がある。アップ用グラウンド及び投球練習場(グラウンド外)のない球場もありますが、試合を潤滑且つ速やかに進める為にご了承願います。
- 28 試合前のシートノックは行わないこととする。
- 29 試合前のトスバッティングで、スタンド方向に向かって打つことを厳禁する。
- 30 その他の規定は本年度の「(公財)日本少年野球連盟主催大会規定」「大会審査要項」に従うものとする。

「中学生投手の投球制限統一ガイドライン」の適用例

※レギュラー・ジュニアの部

	第一日目	第二日目	第三日目	第四日目	第五日目	第六日目	備 考
投手A	80	0	80	0	80	0	80球投げた翌日には登板していないため、翌々日には80球投球できる。 (打者終了時に80球を超えても、1試合分の最大カウント数は80球)
投手B	80	40	休	80	0	80	一日目80球、二日目40球で連続する2日間で120球となったため、三日目は投手・捕手として出場できない。(※また、2日間で80球を超えているので三日目は捕手として出場できない規定もある。投手D参照)
投手C	40	40	35	休	80	40	3日間連続40球以内であれば登板可能。ただし球数に関わらず3日間連続登板した場合は、四日目は投手・捕手として出場できない。 四日目が休みだったので、五日目80球、六日目40球の投球は可能。
投手D	40	45	休	30	60	休	一、二日目で80球を超えたため、三日目は投手・捕手として出場できない。 四、五日目で連続する2日間で80球を超えているため、六日目の3日間連続登板および捕手として出場できない。
投手E	40	40 40	休	80	0 40	休	一、二日目で40球以内の3連投をしているため、三日目は投手・捕手として出場できない。四日目は80球のため五日目は投球した時点から1試合目に登板していなくても連続する2日間で80球を超えるため六日目は投手・捕手として出場できない。
投手F	30 50	休 ※ 捕 手 可	40 40	40	休	80	ダブルヘッダーで80球以内であっても、どちらかの試合で40球を超えた場合は、3連投できないが、 ※連続した2日間で80球以内なので、翌日は捕手としては出場できる。 第3日目からの3連投は40球以内なので可能であるが、3連投した投手は投手・捕手として出場できない。
投手G	40 40	40 休	休	0 40	40 40	休	3連投は40球以内なので可能であるが、第二日目第二試合・第六日目は投手・捕手として出場できない。 また、3連投する場合、1試合目・2試合目は打者の途中でなくても40球以内に交代しなければならない。

【小学生・中学生 共通事項】

※打席の途中で制限数がきた場合は当該打者の打席終了までは投球を認める。制限数を超過した球数は投球数にカウントしない。
 ※数字は投球数。「休」は投手・捕手として出場できない日。(小学生は捕手の出場は可)「0」は登板しなかった試合。
 ※指導者は、公式戦だけでなく、練習試合も対象となっていることを認識する。